



## 学校運営協議会を開催しました

- 6月13日、令和6年度第1回学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会を設置している学校を「コミュニティ・スクール」と言います。学校運営協議会の皆様には、学校と地域の人たちをつなぐハブの役割を果たしていただいています。
- 地域の宝である「子どもたち」を真ん中に据え、「風」の人である学校職員と「土」の人である保護者・地域の皆様が手を携えて広谷小学校の風土を創っていくのがコミュニティ・スクールであると考えます。私たち教職員は、「土の人」たちとつながって「地域から学ぶ」謙虚さと感謝を忘れずに教育活動に取り組んで参ります。
- 今年度も、コミュニティ・スクール広谷小学校として、保護者・地域の皆様と連携・協働しながら、子どもたちを育てていきます。学校運営協議会の皆様、地域の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

令和6年度学校運営協議会委員

No.	氏名	備考
1		浅野校区自治協議会会長
2		広谷校区自治協議会
3		前学校評議員・学識経験者
4		前学校評議員・地域住民代表
5		前学校評議員・地域住民代表
6		民生委員児童委員
7		PTA会長
8		PTA書記
9		校長
10		主幹教諭

### 【学校運営協議会での主な意見】

- ・ 子どもたちの姿勢が気になる。机や椅子等が合っているのかも含めて指導が必要。
- ・ 英語を聞き取る力に驚いた。図工や体育で子どもたちが元気に活動している。積極的に挙手をしていて活気がある。子どもたちの自由な発想に驚いた。
- ・ モニターの活用が素晴らしい。ICTをさらに効果的に活用していただきたい。
- ・ 教室が狭く感じる。物を置く場所等、教室の空間の作り方を統一してはどうか。
- ・ 昔に比べ、子どもたちは伸び伸びしているが、礼儀や我慢・辛抱の心をどう育てていくかが課題。
- ・ 子どもたちが大事に育てられている反面、足りないもの、足さなければならないものもある。
- ・ 先生方には熱意を持った指導をお願いしたい。



授業を参観していただきました

## ■ 中学校登校【6年生】 6月18日

養父校区では小中一貫教育の推進にあたって、年間3回の6年生中学校登校日を実施します。6年生の児童が自宅から中学校に登校し、中学校での生活を体験する1日です。今年度の1回目となったこの日は、中学校の生徒会役員から中学校生活の様子を聞いたり、中学校の先生の授業を受けたり、部活動を見学したりしました。6年生にとっては、初めての環境で濃密な1日になりました。少し未来の体験をした1日。多くの刺激を受け、1年先の自分を考える機会になったはずです。今後も、6年生が未来への見通しを持ち、安心して進学できるように支援していきます。



他校の6年生と中学校の先生の授業を受けました

## ■ 南但クリーンセンター見学

【4年生】6月20日



圧縮梱包機を観察

4年生は南但クリーンセンターに社会見学に行きました。南但クリーンセンターは、ふるさとの自然環境を守るゴミ処理施設です。人間が生活すれば必ずゴミ

が出ます。収集されたゴミはどのように処理されるのか、ゴミ処理施設の工夫とそこで働く人たちについて調べました。私たちの生活を支えてくださる人がいて、私たちの生活を支えるモノがあって、私たちの生活を支える仕組みがある。では、私たちは環境を守るために何ができるのか。この見学を機会に、4年生の子どもたちが少しでも考えることができることができました。嬉しかったです。

## ■ 内水面漁業センターで環境体験学習

【3年生】6月24日



ヤマメのつかみ取り体験

3年生は環境体験学習の一環で、朝来市の奥田路にある「内水面漁業センター」を訪れました。このセンターでは内水面漁業や養殖

業を盛んにするためにいろいろな仕事をしておられます。ヤマメの「つかみどり」から「内臓の除去」、そして「食べる」という一連の活動をしました。つかみどりをしている時は「生き物」だったヤマメが「食べ物」に変わります。生き物への感謝、作ってくれた人への感謝、「いただきます」という言葉の意味を考える機会となったのではないのでしょうか。標高380メートルの美しい水、澄んだ空気。すばらしい但馬の自然の中で、子どもたちは豊かな体験をすることができました。

## ■ 「かなしきデブ猫ちゃん」のマルがやって来ました 6月27日

神戸新聞で連載中の童話「かなしきデブ猫ちゃん」の主人公、マルが広谷小学校にやって来てくれました。全校生を対象にした「かなしきデブ猫ちゃん」の読み聞かせの会です。読み聞かせを聞いた後、子どもたちはついにマルと出会うことができました。会場が一気に盛り上がります。子どもたちはマルが大好き。質問をしたり、いっしょに写真を撮ったり、マルとのふれあいを楽しみました。本校では読書環境の充実を力を入れています。図書室は朝から本を借りに来る子どもたちでいっぱいです。お話の中のキャラクターが飛び出して来て、いっしょにふれあう。さらに本に親しむ、素晴らしい機会となりました。



マルの登場で一気に最高潮

## 「心のスイッチ」

6月の全校朝会では、東井義雄先生の「心のスイッチ」の詩を紹介し、全校生に詩の暗唱を呼びかけました。多くの児童が校長室にやって来ては暗唱に「挑戦」しています。廊下を歩いている子たちからも時々「人間の目は不思議な目、見ようという心がなかったら見えても見えない…」と、声が聞こえてきます。

校長室にやってくる子たちが手にしているプリントを見て、感心することがあります（たいがいしわくちゃです）。「おぼえること」「注意！」

「ここは似ている」等、いっぱい書き込み。こうして覚えるための工夫をして、何度も繰り返し読んで、12行の詩の暗唱に挑戦しているのです。がんばって練習した光景が見えてくるようです。『がんばることを良しとする』広谷っ子の姿をとともうれしく思います。



## 校長室より「広谷っ子ブログ」発信中！

【広谷っ子ブログ】<https://hirotanikocho.blog.fc2.com/>

